

英知通信

英知大学後援会特集号

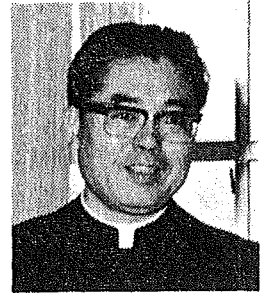
昭和51年10月31日

英知大学

No.18

後援会設立三年を迎えて

学長 岸 英司



たいと存じております。

キリスト教的人間像を基礎とした社会・国家及び世界の中で生きてゆく誠実な人間、人生の真実の意味を認識した「英知の人」の育成に今後とも努力することを申し上げて、私のご挨拶といたします。

昭和五十一年度

後援会役員決まる

総会の席上会長・副会長・監査が選出されたので、会則第七条により会長が常任理事及び理事を委嘱して役員全員が次のように決まる。

会長	山口 満雄
副会長	山岸 陸雄
常任理事	本多 三郎
松井 良太郎	淡野 初子
深井 久男	福田 健彦
阪本 登彦	的場 啓子
森山 拓蔵	小林 茂
牧 莊一郎	田淵 正夫
野中 義一	井口 徹
道野 寛	増野 裕
同 隆	同 信
同 章	同 孝
同 焯	
同 査	

(敬称省略)

英知大学後援会の近況

英知大学後援会は発足以来三年目を迎へ、皆様の熱意あふるるご協力をいただき、本年もまた、新入生のご父兄全員がご入会下さって、順調に発展し、会員七五五名の多数に達し、よろこばしい次第でございます。

初年度には、四〇〇万円、昨年度には、一、〇〇〇万円を大学へ助成金として、贈ることが出来ました。これ、偏に会員の皆様の温かいご協力の賜でございます。大学側におかれましては、会員の皆様のご厚情に対し心より感謝せられ、これによって、L.L教室の改善、学生クラブハウスの排水工事、学生クラブハウスへの歩道の新設、旧館非常階段の新設、学生会ハウス二階建の新設、クラブ活動練習室四室の新設、図書費補助、教員研究費の補助、学生奨学費の補助、学生課外活動費の補助等に配分して使われ、私たち子弟の

第二回英知大学後援会総会を開く

六月十九日(土)午後二時半より、本館三〇一教室で総会を開く、先日来より、梅雨のうとうとしい毎日でありましたが、当日は幸にも雨も止み恵まれた天気で、参会者も七十八名になり、遠くは福井市や小豆島・吉野などから参会せられ、熱意あふるる総会が次の次第によって始められた。

1 開会のことば

山岸副会長より開会を宣せらる。

2 会長あいさつ

山口会長は皆様のご熱意によ

学ぶ英知大学の設備がより充実し、一段と立派になり、その大学で日々勉学にいそむ私たち子弟の学生生活は幸福なことに存じます。
なお現在の入会者数は次の通りであります。

学年	入会者数					学生数				
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計
神学科	9	7	4	7	27	9	7	5	12	33
英文学科	163	152	70	40	425	163	154	114	96	527
イスパニア科	50	54	24	27	155	50	55	40	52	197
フランス科	55	50	22	21	148	55	53	43	53	204
計	277	263	120	95	755	277	269	202	213	961

3 岸学長のあいさつ

り、会員も七五五名の多数となり、三年目を迎えて早や確固たる基礎が出来上り、今後何かにつけて好都合に運ぶことに信じております。こうした会員のご熱意に対し、心よりお礼を述べられ、この上は会員全員が打って一丸となって、後援会の益々発展をはかり、わが英知大学をより充実した立派な大学にいたしましよと力強くあいさつをされました。

英知大学では来年大学としては創立以来十四年、学院としては十五年を迎えますので、新図書館及びチャペル完成を期して学院創立十五周年を祝いたいと思っております。
英知大学が創立十周年を迎えた頃より何とかして後援会が出来ないものかと考え、折々ご父兄の方々とご相談いたしておりましたところ、創立十一年目にしてやっと後援会の発足を、今日では在学生の大多数のご父兄のご加入を得て、その目的が達成されておりますことは本当に嬉しく存じます。
人生における最後の学校である大学も、家庭と学校との緊密な連絡協力なしに真の人間形成はありえないと私は考えております。大学レベルではややもすると、家庭との連絡とすることがおろそかになるものです。が、人生最後の学校であることを考えれば、むしろあらゆる学校の中で、一番必要だとも言えるわけで、出来る限り、皆様の後援会を通して、この点でも努力してまいりたいと思ひます。
今後大学としては研究の面においても密度の深い大学として発展させ

会に入会せられて、毎年大学に
対しご援助をいただいているこ
とに衷心より感謝を述べられ、
わたしは教職員一同は一致協
力して皆様のご子弟の教育に一
層努力いたしますと、述べられ
る。

4 安田理事長あいさつ

後援会設立以来、格別のご協力
によりまして、後援会より大学
に対し多額の助成金をいただき
ありがとうございますと、心よ
りお礼を申し述べられる。

5 講演

英知大学後援会が発足して、早い
ものでもう3年になる。当時のこと
を振り返ってみると、後援会は岸学長
の偉大な構想と熱心な希望から生ま
れたと云えよう。

日本では男女共学のカトリック大
学として3つ挙げられると思う。東
京の上智、名古屋の南山、それにわ
が英知大学である。上智・南山には
古くから後援会があり、それぞれ大
学の発展
に寄与し
ている。

後援会発足三年

英知大学後援会長 山口 満雄

そこで
岸学長はこれら2校後援会の会則そ
の他を参考にし英知大学にふさわし
い、より立派な会則案を作成して発
起人会に提示された。受けて発起人
会、それは暑い7月、人影とてない
キャンパスの一隅でなんども会議を
持ち、クールな熟慮、ホットな討議
を重ねたことであった。

こうして、会員各位のご協力をえ
て後援会はスタートし、爾來わたし

次は、岸学長先生が懇切丁寧
に、三十分間にわたって後援会に講演さ
れたものを、要約したものでありま
す。
(文責 石田書記)

大学の使命

学長 岸英司 先生

英知大学は昭和三十八年度に神学
科が創設され、それより引き続いて
英文学科・イスパニア文学科・フラ
ンス文学科が増設されて現在にいた
り、只今学生数は九六一名でありま
す。カトリック大学として、創設さ
れ、上智大学・南山大学と本学とが

会長としての役を果し得たのはひと
えに岸学長、役員のかたがたと、そ
して会員各位のご支持によるもので
ある。

ことは本年長年の願望であった
新図書館と大学チャペルの建設が始
まった。

ひごろから岸学長は、大学に必要
なのは図書充実と云っておられ
る。現在本学の所蔵は4万5千冊を

超え、新図書館竣工の暁には15万冊
以上が収容可能とのこと。

図書館と合わせて大学チャペルが
建設されることはカトリック大学と
して創立14年を迎え、青年期に入ろ
うとする英知大学にとって、まこと
に結構なことだ。

言うまでもなく、教育の目的は人
格の形成・完成にある。そのために
祈りの場があるということとは、ほん

わが国における三大カトリック大学
であります。

◇

本学は既に申し上げましたように
カトリック大学でありますので、カ
トリシズム・キリスト教的教育理
念、キリスト教的ヒューマニズムを
建学の精神としていたることは勿論で
ありますが、大学であります以上、
学問研究の場だということでありま
しう。大学は学問の蘊奥を極める
ところで、大学は学問の場、真理追
求の場、研究の場として最高の教育
機関だということができましよう。

しかし大学は学問の研究による人間
とうに素晴らしいことだ。祈りー神と
の交わりーは人格の形成・完成にか
かせぬものだから。

ドームのステンドグラスを透して
差し込む光を浴びながら、神の前で
静かに祈っている学生の姿を思い浮
べるとき、わたしの胸に熱いものが
こみあげてくるのだ。



さしず
め今年度
の後援会
事業は、
図書館建
設の補助
に向けら
れること
になって
いる。

これからはますます発展をつづけ
るであろう英知大学の歴史のなか
で、後援会がもつ役割についてあれ
これとふくらむ思いを走らせなが
ら、そして、希望あふれる学生諸君
のために祈りつつペンを置く。

英知大学後援会 昭和50年度決算書

1. 収入の部

項目	金額	備考
入会金	5,400,000	新入生 270人×20,000
年会費	2,700,000	新入生 270人×10,000
〃	2,065,000	在来会員 200人×10,000
入会金	600,000	在学生より新入会者 30人×20,000
年会費	300,000	〃 30人×10,000
雑収入	471,264	預金利子等
繰越金	3,018,920	前年度より
収入合計	14,555,184	

2. 支出の部

項目	金額	備考
助成金	10,000,000	会則第4条1~3項による助成
事業費	560,280	会則第4条4項による事業
事務費	96,480	印刷郵送料等
会議費	84,640	会議費等
雑費	1,610	
予備費	0	
繰越金	3,812,174	次年度へ
支出合計	14,555,184	

3. 差引残高 無

形成にあると思えます。一般によく
学問研究と人間形成といわれており
ますが、「と」ではなく「による」
ということが大切であると思いま
す。すなわち学問研究による人間形
成、人間形成による学問研究であり
まして、大学においては学問の研究
と人間形成ということが切り離され
てはならないのであります。本学に
おきましては、教授一人の先生につ
いて、極く少数の学生が教授を囲ん
で、学問の研究をしつつ人間形成が
なされ、人間形成がなされつつ学問
の研究が行われているわけでありま
す。

では、真の人間形成が出来ないわけ
であります。

◇

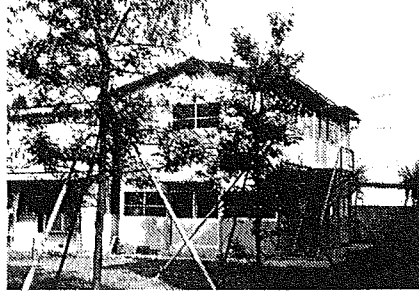
英知大学は以上申しのべました理
念に基づき、皆様のお子様の教育に
これからも、一層の努力をかたむけ
てまいりたいと念願しております。
人生の真の価値に目ざめ、それを
社会の中で追求する人、すなわち、
人生の知恵に満された人間、「英知
の人」を創りあげてゆく私共の使命
が達成できます様、ご援助をお願い
いたします次第であります。

このような考えからすれば、大学
における教授は学問に対して、蘊蓄
ある研究をもたれる研究者であると
同時に教育家でなければなりません
。でなければ学問の真理探究のみ
に走り、人間形成がゆるがせにな
る。

6 昭和五十年年度の決算報告につ
いて別紙決算書に基づいて、石田
書記より説明、中畑監査より詳
細に監査いたしましたところ、
正確に処理され誤りのないこと
を認めます。との監査報告があ
って満場一致承認。



旧館非常階段



学生会ハウス

後援会助成金1,000万円

使途配分表 (昭和50年度)

英知学院

第4条第1項 (大学の教育研究環境改善事業)	
学生会ハウス新設	300万円
旧館非常階段新設	358万円
クラブ活動練習室新設	98万円
計	756万円

第4条第2項 (大学教員及び学生の研究助成)	
図書費補助	139万円
教員研究費補助	50万円
学生奨学費補助	20万円
計	209万円

第4条第3項 (学生の厚生、保健)	
英南戦宿泊費補助	35万円
計	35万円
合計	1,000万円

8 昭和51年度予算審議について
別紙予算書によって石田書記

以上原案の発表が終るや否や
満場異議なしの拍手が嵐のよう
にわき起り、それこそ総意によ
って決定する。

7 役員改選について
議長より、会則第七条によれば
議長・副議長・監査は総会で選
出することになっており、第九
条では役員の任期は一カ年とす
る。ただし重任を妨げない。と
いうことになっておりますが任
期一年も過ぎましたので改選し
なければなりません。それで
は、選出方法をどうすればよろ
しいかと発問せられるや、「推
せん」にしてはとの意見があつ
て、推せんに賛成、推せんにつ
いては、役員会推せんの原案を
次のようにあげられる。

会長 山口 満雄
副会長 山岸 陸雄
同 本多 三郎
同 箭内 孝章
監査 中畑 孝

英知大学後援会昭和51年度予算書

1. 収入の部

昭和51年4月1日より
昭和52年3月31日まで

項目	金額	備考
入会金	5,600,000	新入生 280人×20,000
年会費	2,800,000	新入生 280人×10,000
〃	4,510,000	在来会員 451人×10,000
入会金	100,000	在学生より新入会者 5人×20,000
年会費	50,000	〃 5人×10,000
雑収入	130,000	預金利子等
繰越金	3,812,174	前年度より
収入合計	17,002,174	

2. 支出の部

項目	金額	備考
助成金	16,000,000	会則第4条1項による助成 (図書館建設寄付金)
事業費	550,000	会則第4条4項による事業
事務費	150,000	印刷郵送料等
会議費	150,000	会議費等
雑費	52,174	
予備費	100,000	
支出合計	17,002,174	

3. 差引残高 無

より説明、特に会長より本年度
に大学では新図書館並びに学生
用チャペルを新建設されるにつ
き、後援会より、建設資金の一
部として、一、六〇〇万円を助
成いたしたいと思っております
ので、ご協力をねがいます
ますと発表され満場一致で原案
通り賛成決議さる。

なお学長より新図書館並びに学
生用チャペル建設について概要
を次のように話さる。

工事請負業者は藤木工務店、工
事期間は本年七月より来春三月
末の予定。総工費二億七千万円
竣工の暁には、広々とした閑静
な閲覧室を持ち十五万冊以上の
蔵書が貯蔵出来る書庫を備え、
文学部の大学として誇りとする
すばらしい図書館であります。
資金の調達については、借入金
として、私学振興財団・市中銀
行・学債から、寄付金として、
大阪教区・英知大学後援会・外

後援会懇親茶話会を開く

総会が終るや直ちに、二階の図書
室に参集、山口会長並びに岸学長の
あいさつに引続いて茶話会に移る、
昨年の懇親パーティーでの親しさも
あつてか、始めからなごやかな話し
合いがなされ大へんな賑やかさであ
つた。その間に学長や会長に対し
て、話し合いが十分になされ、会員
は満足感とよろこびを心に秘めて、
午後五時ごろそれぞれ帰路につかれ
た。(文責 石田書記)

傘木教授副学長に就任

英知大学理事会は七月一日付で、
故大園義興前副学長の後任として傘
木澄男教授を任命した。傘木教授は
これまで教務部長として事務を担当
しており、一時は学生部長を兼任し
たこともある。傘木教授は四十二年
婦朝、専攻は法学。本学の発展に尽
くした功績は大きい。

なお、四十八年四月一日より学生
課長を勤めていた中野正勝講師は教
理神学の研究を深めるため、ローマ
へ留学することになり、九月九日
的の地へ向って飛び立った。中野前学
生課長の後任としてローマから帰朝
した松本信愛講師が学生部長兼課長
の重責をになうことになった。松本
講師はローマ留学以前本学で三年
間、学生課長を勤めていた。

副学長に就任して

傘木澄男

故大園義興教授のあとをうけてこ
のたび英知大学副学長に選任された
ことに心身の引き締まる思いがして
いる。英知大学に奉職して以来八年
間、大学の基礎づくりの時期を大学
と共に生きてきて、自分なりに英知
大学はどういう大学になっていかね
ばならないか、どういう特色をいか
すことが日本の社会において英知大
学の果たすべき役割であるかにつ
いていろいろ考るところがあつた。
よい大学といえど誰でも第一に学問
研究の高さ、第二に青年の人格形成
・人間教育を挙げらるであらう。大学
の使命・役割は今日著しく変化して
いるとはいえ、いかなる時代におい
てもこの二つを共に重視し、その目

標に向かつて努力することが大学の任務であることには変りない。

英知大学は現在学生数一千人という理想的なサイズの学園として、独自の特色を出していかねばならないが、それはあくまでもカトリック大学としての、カトリシズムの人間観に基づいたきこまかい人間教育と高い知識教育の精神・理想の行きわたった雰囲気を持つ大学ということだと思ふ。研究心旺盛な教員と少数の勉強熱心な学生だけでは、よい英知大学は望めない。

スポーツを通じて

学生とのふれあいを

―新学生部長松本信愛講師に聞く―

松本信愛講師は去る六月、ローマ教皇庁立ラテラノ大学での三年間の留学を終え、帰国した。「アカデミア・アルフォンシアーナ」で倫理神学を専攻、論文には「ジョゼフ・フレッチャーの状況倫理」を取りあげ、その「批判的分析」を行った。本学では、七月一日付で松本講師を新学生部長及び課長として迎えることになった。そこで学生部長として第一声を聞かせていただくことにした。

―新学生部長になられた抱負をひもとく―

「学生課長は以前にもやっていますし、仕事の内容もよくわかっています。ですが、学生部長というのはまだピンとこないんです。まあ部課長関係なしに学生指導を担当していきたいと思ひます。」

―どういふヴィジョンでやっていますか―

英知大学は何よりも、皆が勉学を大切に、人間教育を重んずるまじめな大学であるという定評をもつ大学になっていって欲しい。英知大学はいまや設備・陣容も整い、その基礎の上に立ってそうした英知カラーというものをかもし出し、つくり上げていく大事な時期にある。私も今後学長先生のよき補佐役として、全教職員・学生の方々と協力して、英知大学の充実・発展のために、できるだけお役に立ちたいと念願している。

「まずは現状把握。今はただ何事も静観あるのみです。」とキッパリ言い切られる。

―帰国後のご感想は―

「あちらとの教会のあり方の違いをしみじみと考えさせられました。ローマではほとんどの人がカトリック信者です。アメリカ、イギリスの教会も見てきましたが、状況的にも雰囲気においても日本とはあまりに違います。日本での教会のあり方を再吟味し、もう一度私たち自身の手で作っていく姿勢が必要だと思ひます。語調が一段と熱気を帯びる。留学中に学んだことを日本のクリスチャンに適するように生かしたい、留学は良い経験になった、と繰り返しされる。

―三年間のブランクは―

「先生方は以前から知っているのですが、その点気が楽ですが、学生は顔ぶれも変わりごく一部の学生しか知りません。あせらずに長い目で見てほしいのがわかってきた時点で自分の持ち味なりを出していきたい。事務だけにとどまらず、できるだ

鮑宗賢講師スペインに留学



去る、九月十七日、イスパニア文科学科講師の鮑宗賢先生は、

学生時代から始められたイスパニアの神秘思想、とくに十六世紀の大神秘家、アヴィラの聖テレジアについての研究を深めるためスペインに向

け色々なクラブに顔を出し、自分もいっしょに活動に参加して体で接することによって学生の気持ちを知っていききたい。―「義務や責任」からではなく自ら学生とのふれあいを求めて―

フアイト満々の松本講師である。三年間のブランク克服にも意欲的である。それだけに趣味の方もスポーツが大好き。なにしろ帰国後本学に着くや否やテニスをしたとかいうエピソードがあるほど。スポーツの話になると目の輝きが増す。今後はテニスだけでなく、サッカーなどは激しいものにも挑戦してみたいという。そのうちサッカーコートでおみかけすることができたら。夏は水泳、冬スキーと季節に関係なく一年中楽しんでおられる。(ローマ留学中、一番残念だったのはスキーができなかったことか) スポーツの他にも音楽、囲碁、ドライブと多芸多才の万能選手である。学生からも「シンアイさん」と呼ばれ人望も高い。今後フロンティア精神をもって学生部長として「松本カラー」を作っていけるだろう。

つて飛び立った。

現地では十月からマドリッド大学の講義に出席、夜はマドリッドのカルメル会修道院で主に修道女のために開かれる聖テレジアについての講義を受けられる。

「聖テレジアについての研究は日本ではほとんど行われておりません。現地で研究家に会い実際の研究状況を知ると共に、現在その精神をひきついで生活している人の修業ぶりや国民の熱意、またどれほど一般の生活に浸透しているかをみてきた。―その人が生きた地を見ること。それが第一―とおっしゃる鮑先生、滞在中はテレジアが生誕に創設した十七の修道院めぐりをなさる。なお留学期間は半年の予定。

研究室便り

○ゲッレルト・ベーク教授 (神学) は、ニュージャージーのインターナショナル出版社より、ABEL JAPANBAN「アベルの目撃した日本」をハンガリー語で出版した。

○和田幹男助教授 (聖書神学) は、去る七月二十九日、上智大学で開かれた夏期神学講座において、「イスラエルの祈りのなかににおける神」と題して三百六十人の受講者に向つて一時間十五分講演を行い、多大の感銘を与えた。またその後行われたシンポジウムでは発言者の一人として活躍した。

和田助教授はまた、日本聖書協会の主催する共同訳聖書の編集委員として、八月二十三日より五日間、東京銀座における同協会に赴き、編集者とともに旧約聖書の翻訳を検討した。

○玉谷直実助教授 (心理学) は去る九月十七日から十九日の二日間、藤沢市聖園記念館において開かれた上智大学人間学会で「心理的成熟と宗教的霊性について」というテーマのもとに、心理的成熟と宗教的霊性とはどのようにからみあつて人格を形成してゆくのかについて研究発表を行った。

また、「声」十月号に「変容のドラマ」―結婚の心理的意味―と題する論文を発表した。

○井上博嗣助教授 (英米文学) は、十月十六日、新潟大学において開かれた日本アメリカ文学会第十五回大会において「The Glass Menagerie」における Jim の役割と人物」と題して約四十分研究発表を行った。

○中野正勝講師 (教理神学) は、ローマより第一信を送ってきたが、それによると、目下、イタリア語を学習中、毎日多忙な日々を送っているとのことである。教理神学の正規のコースは十月十五日よりプロパガンダ大学にて始まるので、そのためにイタリア語の必要性をも痛感しておられる。

現住所は Collegio S. Pietro Ap. Viale Mura Aurelie 4 00152 Roma, Italy

英知通信

昭和五十一年十月三十一日発行
編集者 英知大学
学長広報室

兵庫県尼崎市若王寺苗田
電話(06)四九一―五〇八三
六六一